

# パソコン製作とプログラミング



## 確認の重要性再確認

ほとんどを初めて握った。370度の熱で溶けたはんだの煙は、独特なにおいがあった。

夏休み初日の7月21日、栃木工業高で、教育用パソコンの組み立てと、そのパソコンを使ってロボットカーを動かすためのプログラミングに挑戦した。

教材は同校が開発、商品化した子ども向け製作キット「SkyBerryJAM」(スカイベリージャム)。昨年、同校生徒によるキットを使った小学校での出前講座などを取材し、興味を持っていた。

電算機部の電子情報科3年今井稜部長(17)の手本を見て、名刺サイズの基板に約20種類の部品をはんだ付けす

美奈真 磯 橋木支局

る。指先に意識を集中して作業したが、5個並ぶ発光ダイオード(LED)が傾くなど、不格好な仕上がりになってしまった。

キットの商品化に関わった今井部長は「部品を正確に付

塗られた道をセンサーで探知して走るよう、「OUT」「WAI-T」などのプログラミング言語をキーボードで打ち込んでいく。

入力を終え、パソコンのスタートスイッチを押すと、ロボットカーは勢いよく走り出した。一つ目の角を右折しようとした瞬間、ロボットカーはその場で回転。前進しなくなり、今井部長らと一緒に苦笑いした。



今井部長(左)らとプログラムのエラーを探す  
磯記者(右)

今井部長から一言 1時間ではなかなか完成しないので、素晴らしい出来栄えだと思います。出前講座は今秋50回目を迎えます。小学校で必修化されたプログラミング教育を、私たちの商品で手助けができればうれしいです。

県内の各地域に密着し、取材に励む若手記者たち。担当する市町に根付く文化や活動を今夏、新型コロナウイルス感染症防止に努めながら熱く体験取材した様子をレポートする。(地域各面に随時掲載)

記者として原稿を出稿する際、上司から口酸っぱく言われる「ちゃんと確認したか」の言葉が脳裏をよぎった。プログラミングも原稿も、誤字脱字は命取りだった。

「もしかして誤入力があったのかな」。慌ててプログラムを見直すと、「一」とすべき文字を「二」と打ち間違えるなどしてエラーが出ていた。情けない。